

第 37 回黒部市公共交通戦略推進協議会報告事項及び協議事項に対するご意見とその回答について

○協議事項に対するご意見とその回答

協議事項	ご意見	回答
(1) 公募委員の募集について資料5	<p>本委員会は、役職のある立場から参加している人が多いので、熱い思いを持っておられる方が公募で参加頂けるとありがたいと思う。</p> <p>選考には、「論文審査」とあるが、ハードルが高くなると思う。</p>	<p>利用者目線の観点から公募委員の参加は必要なことと考えており、800字程度の作文で可としています。</p> <p>審査については、公募される方の公共交通に対する考え方を把握するため、必要と考えております。ご理解をお願い申し上げます。</p>
(2) (仮称) くらべ市民交流センターの最寄りバス停について資料6	<p>(仮称) くらべ市民交流センターへのアクセスについては、既存のバス停の最寄り設定による利用で良いと考える。</p>	<p>現在の状況では、既存バス停を最寄りバス停と設定しますが、(仮称) 市民交流センターオープン後の利用動態を踏まえた上で、必要に応じて、新規バス停の設置等を行っていくこととします。</p>
(2) (仮称) くらべ市民交流センターの最寄りバス停について資料6	<p>小型車両の乗り入れについては、その方針を理解する。</p> <p>「中心市街地をめぐる電動小型カート等について調査する」ことについては、その必要性、計画の狙い、既存公共交通との住み分けの考え方を整理してほしい。</p>	<p>市の周辺部から中心部については、公共交通を整備して、まちに出かけやすくし、その上で、まちの中心部においては、回遊しやすくすることによって、せっかくまちの中心部に来た高齢者が病院やショッピングだけで完結することなく、中心部を周遊しやすくすることになり、ひいては、出かけることが促され、それが健康にも資することにもなり、中心部の活性化にもつながると考えております。</p> <p>また、既存公共交通との住み分けですが、市の周辺部から中心部への移動については、既存の公共交通を最大限活用し、中心市街地内の小さな移動については、周遊性を重視する電動小型カート等の活用について、検討してまいります。</p> <p>その結果、中心部に来られる市民の方々、即ち全体のパイ(人数)を増やすことができれば、公共交通事業者にも良い効果を生むのではないかと考えております。</p>
(2) (仮称) くらべ市民交流センターの最寄りバス停について資料6	<p>電動小型カートの導入については、国交省でも支援メニューを用意している。</p> <p>導入のタイミング等の問題もあるが、相談して頂きたい。</p>	<p>電動小型カートの調査研究を進める際には、ご相談をさせて頂きます。</p>